

# 中口経済貿易関係 - 現状、問題とビジョン

中国社会科学院ロシア東欧研究所副研究員 柳豊華

## 要旨

中口間の貿易は8年連続で成長した。両国の経済協力は次第に拡大し、経済貿易における顕著な業績は衆目の一致するところである。しかし、その中における問題も無視できない。両国の国境貿易は合理的な状況とは言えず、相互の投資規模は小さく、貿易秩序を規範化すべきでもあり、国際間の商習慣に合致する貿易サービスシステムが未だ確立されていない。両国政府はこれらの問題解決に向けて積極的な政策を打ち出し、両国貿易のさらなる発展を促進しようとしている。中口関係が強化される中で、両国経済は迅速に成長し、エネルギー協力も次第に拡大している。ロシアは近い将来WTO加盟を実現する見通しであり、中口経済貿易の発展を促進する有利な要素になると考えられる。

キーワード 中国 ロシア 貿易関係 経済協力

近年、中国とロシアの貿易規模は次第に拡大し、経済協力の水準も強化され、両国は互いに主要な貿易パートナーとなっている。しかし、中口の戦略的パートナーとしての関係において、経済関係の発展は政治関係より遅れており、経済関係は政治関係を支える役割を十分に発揮していない。中口両国政府は戦略的パートナー関係の「経済ファクター」を強化するために、両国の経済界と学界にこの問題について検討するよう働きかけ、中口経済貿易協力における新しい領域と方法を模索している。本論では中口経済貿易協力の現状を論述し、主要な問題と、問題が形成された原因を分析し、協力ビジョンを展望することによって、中口経済貿易協力の潜在力を探ることを目的とする。

### 1. 中口経済貿易関係の現状

旧ソ連が崩壊して後、中口経済貿易協力はおよそ以下の4段階があった。第1段階はスピーディーな発展段階（1992～1993年）である。ロシアの工業生産が著しく減速しつつある中、市場の商品が不足し、国民の購買力も限られたため、安価な中国製品はロシアで一時的によく売れていた。1992年の中口貿易額が1991年よりはるかに越え、1991年の貿易総額39.04億ドルに対して1992年は58.63億ドル、さらに1993年は76.79億ドルに達した。この段階における両国の貿易は政府協定貿易と企業間バーター貿易が主な方式であった。

第2は下落段階（1994～1995年）である。ロシア経済情勢が依然悪化したため、ロシア政府はバーター取引を制限し、また中国の粗悪な商品がロシア消費者から排斥された。こうした状況の中で、貿易総額は50億ドルにまで減少した。

この段階で中口貿易は次第に現金貿易に転換している。

第3は調整と不安定の段階（1996～1999年）である。貿易における問題が未解決で、1998年にはロシア金融危機が発生したことなどの原因で、中口貿易額は50～70億ドルの間を上下した。

第4は安定かつ早い回復の段階（2000～2006年）である。ロシア経済が成長を回復するにしたがって、中口両国政府はさまざまな措置をとって経済協力を促進した。中口貿易は毎年2桁成長を遂げ、貿易額は2001年が100億ドル、2004年が200億ドル、2006年は300億ドルを突破した（表1）。

以上述べた各段階では、中口貿易の構成に大きな変化は

表1 1991～2006年の中口貿易額一覧表（単位：億ドル）

年	輸出入総額(億ドル)	前年比(%)
1991*	39.04	- 10.8
1992	58.63	50.2
1993	76.79	31.0
1994	50.75	- 33.9
1995	54.63	7.6
1996	68.46	25.3
1997	61.20	- 10.0
1998	54.80	- 10.5
1999	57.20	6.0
2000	80.00	39.9
2001	106.70	33.3
2002	121.07	13.4
2003	157.61	30.1
2004	212.30	34.7
2005	291.00	37.1
2006	333.90	14.7

出所：1991-2003年のデータは李建民「中口経済貿易合作 問題と展望」、邢广程・姜毅（編）『新世紀的中俄関係』を引用。2004～2006年のデータはそれぞれ年度の中国海關統計による。

注：\*は中ソ時代の貿易総額で、そのうち80%はロシアとの貿易額。

ない。中国の対口輸出は紡績品や労働集約型の軽工業製品を主としている。ロシアの対中輸出は原材料と機械設備を主としている。投資、労務、工程請負、科学技術分野の協力において一定の進展はあったが、全体的にみるとまだ低い段階にあった。

中国の税関統計によると、2006年の中口貿易額は333.9億ドル（前年比14.7%増）うち中国の対口輸出額が158.3億ドル（同19.8%増）ロシアからの輸入額は175.6億ドル（同10.5%増）となった<sup>1</sup>。現在のロシアは中国にとって8番目の貿易相手国となっており、中国はロシアの第4番目の貿易相手国である。

2006年の両国投資状況は、中国商務部が登録認可した中国からの対口投資プロジェクトが79件あり、1992年から2006年末までの累計で736件となった。中国の対口直接投資総額（非金属類）は4.7億ドルで、2006年末までの直接投資累計は9.35億ドルとなっている。投資分野は主にエネルギー、鉱産物開発、林業、貿易、紡績、家電、通信、建築、サービス業、不動産開発などである。

同年のロシアによる対中投資プロジェクトは126件、契約ベース外資利用額は2.3億ドル、実行ベースでは0.67億ドルとなっている。2006年末までの累計は1,975件、契約ベース外資利用額累計は16.4億ドル、実行ベースでは6.1億ドルである。投資分野は主に製造業、建築、交通輸送などである<sup>2</sup>。

労務輸出と工程請負では、2006年の契約総額は10.7億ドルに上り、6.6億ドルが完成、労務派遣人数は22,852人である。2006年末までの労務輸出と工程請負の契約総額累計はそれぞれ66.2億ドル、33.6億ドルに達し、同年末のロシア滞在人数は25,275人であった。中国による対口労務輸出は主に極東・シベリア地域における農業、建築、森林伐採、木材加工、服装、医療、その他サービス業である<sup>3</sup>。

技術貿易では、2006年にロシアから中国に38件の技術が移転され、総額は1,348万ドルとなった。分野は主に原子力発電、航空・宇宙、電子などである<sup>4</sup>。

2006年中口国境貿易額は69.8億ドル（前年比25.2%増）で中国全土の国境貿易の43.2%を占めた<sup>5</sup>。

## 2. 2006年における中口貿易の主な特徴

貿易規模が継続的に拡大しているが、成長は減速している。2006年の貿易額は14.7%増だったが、前年伸び率より22.4ポイント減少した。輸出入の増加は下押しになっており、中国による対口輸出は19.8%伸びたが、前年伸び率より25.4ポイント減少した。ロシアからの輸入は10.5ポイント伸びたが、前年伸び率より20.6ポイント減少した。輸出入が下落した原因は、ロシア側による「灰色清关」（訳注：輸出国の通関代理会社を通して品目を偽装して輸出すること）取締りのため外国籍労働者と移民に対する制限政策を実行したことによる。このことは中国企業における服装、紡績製品、靴などの商品輸出に直接に影響を与えた。

輸入量下落の原因は市場に影響されたものである。中国がロシアから輸入する商品の種類が減少し、次第に石油と木材に集中した。ロシアによる対中輸出の例から見ると、鉄鋼製品の輸出量が79%、輸出額が74%減少した。鉄鋼製品の対中輸出の比重は2005年の10.9%から2006年は2.6%にまで減少した。化学製品は1.7%減少し、化学肥料は輸出入ともに20%減少した。非鉄金属の輸出額は以前の水準に戻ったが、輸出量は若干減少した<sup>6</sup>。

従来貿易不均衡の状況が改善し、中国側の入超は縮小しつつある。1992年から中口貿易は中国側が入超のまま続き、累計超過額は424.2億ドルとなった。2006年は中国の入超額は17.3億ドルで前年より35.4%減った。

両国間の貿易構造に大きな変化はみられないが、中国の対口輸出品の商品構造は改善しており、かつては紡績品の対口輸出が第1位だったが、それに代わり機械電気製品の輸出割合が迅速に増長し、対口輸出品のトップとして、総額56億ドルに達し、輸出全体に占める割合が35.4%となった。ロシアからの対中輸出品の構造はほぼ変わらず、依然としてエネルギーと原材料を主とする。機械電気製品の輸入割合が継続的に減少しており、総額は2.5億ドル、ロシアからの対中輸出品のうち1.4%のみである。

国境貿易は継続的に安定した成長をみせており、近年、両国間貿易総額の20%を占めている。2006年の国境貿易額は前年比25.2%増で、両国の貿易伸び率より10.5ポイント高い。

中国による対口貿易の経営主体は多様化している。民営

<sup>1</sup> 「2006年：中俄経貿合作全方位推進」 <http://www.crc.mofcom.gov.cn/crweb/crc/info/2007/03/05>.

<sup>2</sup> 同上。

<sup>3</sup> 同上。

<sup>4</sup> 同上。

<sup>5</sup> 同上。

<sup>6</sup> 「俄罗斯驻华商务代表齐普拉科夫谈中俄贸易现状」、<http://www.crc.mofcom.gov.cn/crweb/scoc/info/2007/02/12>。

企業の割合が58%となり、国有企業の42%を上回った。民営企業の中で個人事業者が貿易額の37%を占めている。

### 3. 中ロ経済貿易関係の主要問題とその原因

中ロ経済貿易関係は大きな進展を遂げているが、長期間にわたって多くの問題が未解決の状況でもある。

まず、両国貿易の構造的な矛盾が依然として目立っている。とくにロシアによる機械電気製品の対中輸出規模が小さい。2001～2006年において、中ロ貿易総額は106.7億ドルから333.9億ドルに増加したにも係らず、機械電気製品の貿易額が低い水準になっている。2006年、中国の機械電気製品輸入額は4.277億ドルに達し、輸入全体の54%を占めたのに対し、ロシアから輸入した機械電気製品は2.5億ドルにとどまり、僅か0.06%に過ぎない。また、ロシアの対外貿易輸出額は3,020億ドルで機械電気製品は0.08%である<sup>7</sup>。機械電気製品の両国貿易に占める割合は極めて低く、両国の経済力に相応したものとなっていない。

また、双方の投資規模が小さく、相互貿易にもたらす影響がみえていない。2006年末までの中国の対ロ投資額累計は9.35億ドル、ロシアの対中投資額累計は6.1億ドルで、投資規模が小さいため、潜在力をさらに発掘することが期待される。

三つ目に、投資貿易の秩序を規範化していく必要がある。現在では高額な関税と「灰色清关」(中国の経営者は「包機包税」という)が中国製品のロシア市場進出に大きな障害となっており<sup>8</sup>、また両国経済貿易の健全で秩序ある発展を制約する主要因となっている。「灰色清关」は中ロ貿易において10年もの間存在していた。ロシア側の会社が中国の輸出業者の委託を受け、通関申告や納税などのサービスを提供する際<sup>9</sup>に、関税を減少させるためロシアの税関当局に対して部分的に、或いは価値を低く設定して申告する不正行為である。

中国製品はこのように合法的な手続を経ないことを原因として、ロシア側管理当局から没収される可能性が高い。にもかかわらず、このような事件がロシアでは常に発生している。一方で、ロシアの高額な関税を払えば、価格面で中国製品の競争力がなくなると考えられている。また、この不正行為がロシアの各種集団の利益にも係っているた

め、根絶が困難な状況である。これは中ロ双方の経済にとって損失をもたらし、経済貿易協力を重大な障害となっている。

四つ目は、国際的商習慣に沿った貿易サービスのシステムが確立されていないことである。銀行決算、貿易仲裁、輸出信用保険、製品品質の監督管理、通関などの分野における両国の協力が貿易需要に十分に対応できず、中ロ貿易における契約実行率が低い要因となっている。債務の延滞や貨物・資金の不透明な拘束などは、このような貿易状況と深い関係があると考えられる<sup>10</sup>。

五つ目は、両国の大手企業による積極的な協力意欲が欠けること、また中小企業の貿易相手国に対する経済発展状況と市場変化に対する適応力が強くないことである。マーケットリサーチ、製品市場開拓、アフターサービス、代理店やコンサルタントなどとの協力等、対象国に自社製品を普及させることを得意としていない。

中ロ経済貿易関係に以上の諸問題が存在する原因は、以下のとおりである。

中ロ貿易がなお自然発生的差異の比較優劣を基礎とした産業間の貿易段階に置かれていること。

産業間貿易は過渡期の国際貿易の状態である。国家間貿易の品目は多くが資源製品と製造業の最終製品で、貿易方式は一般貿易となっている。

ロシアの鉱産品は豊富で、重工業も発達しているが、軽工業が遅れている。中国は軽工業が発達しているが、国内のエネルギーに対して急速な経済発展が需要を満足できず、経済面での相互補完が中ロ貿易の基礎を構成させた。

中国はロシアに服装、靴、食品などの製品を輸出し、ロシアからはエネルギーと原材料を輸入している。このような製品構成は短期間では変化し難い。近年、製造業が迅速に発展し、国際競争力が強化されるに従って、中国の機械電気製品の対ロ輸出も急速に成長した。しかし、ロシアの機械電気産業は未だに調整期から脱しておらず、対中輸出は年々減少している。ロシアによる対中輸出の多様化の進展はエネルギーの総体的な増加と機械製品の減少によって次第に低下する傾向に陥っている<sup>11</sup>。

両国経済が過渡期にあり、国の管理体制において市場経済の需要と国際的商習慣に沿っていないことが多く、貿易

<sup>7</sup> 「商務部副部長が広州で行った中ロ貿易状況についての談話」 <http://www.crc.mofcom.gov.cn/crweb/scoc/info/2007/03/05>

<sup>8</sup> 須同凱 「中俄经贸关系发展情况」(中ロ経済貿易関係発展の状況) 『俄罗斯中亚東欧研究』2005年第1期。

<sup>9</sup> [http://www.kitairu.net/rus/about\\_china/magazine/archive/2005/4/36/](http://www.kitairu.net/rus/about_china/magazine/archive/2005/4/36/) (2004年中ロ経済貿易の協力) [http://www.kitairu.net/rus/about\\_china/magazine/archive/2005/04/36](http://www.kitairu.net/rus/about_china/magazine/archive/2005/04/36)。

<sup>10</sup> 李建民 「中俄经贸合作 - 问题与前景」(中ロ経済貿易協力 問題とビジョン) 邢広程・姜毅 (編) 『新世纪的中俄关系』(新世纪の中ロ関係) 2004年、p106～108。

立法と管理体制整備が経済協力発展の需要に追いついていない状況がある。

「灰色清関」現象は中国とロシアの貿易体制及び対応する立法の整備が遅れていることを反映している。ルール化されていない貿易秩序は経済構造の改革が初級段階にある両国の経済体制の欠陥に起因する<sup>12</sup>。このような情勢の下で、中国の業者がロシアで競争に遅れまいと紡績品価格をダンピングしたため、正常な貿易秩序に影響を与えた。しかし、ロシアの鉄鋼会社も中国で鋼材価格を値下げしたため、中国側がアンチダンピング調査に乗り出すこともあった。ロシア側の通関、製品検査、輸送、銀行決算、保険、情報サービスなどの方面における問題は中口経済貿易の協力発展を阻害している。

中口間機械電気製品の貿易が大型プロジェクトの促進となっていないこと。

長期にわたり、ロシアの中国に対する機械電気製品輸出は、主に大手企業が政府から直接政治的支援を受けることによって、大型プロジェクトを通じて行われてきた。近年来、中口国家間プロジェクトの完成に伴って、大型プロジェクト案件が減少し、機械電気製品におけるロシアの対中輸出シェアが持続的に減少している。

中口両国の経済発展のレベルが低いこと。

ロシアの投資環境が悪いことが、中口間投資が低水準にとどまっている主な原因である。中口両国の経済発展はともに資本導入の段階におかれ、大規模な投資能力を備えていない。また同時に、ロシアの直接投資関連法規は不完全であり、投資に困難な状況をもたらしており、情報提供も不十分であるため、中口両国の投資促進を妨げている。

#### 4. 中口経済貿易発展のビジョン

中口間における政治関係と経済貿易関係は安定し、急速に発展しつつある。両国の指導者は経済貿易に明るい未来を描いており、2004年9月、両国の首相は2010年の貿易額を600～800億ドルとし、2020年の中国による対口投資を120億ドルにするという新たな目標を掲げた。このような一連の政治的な誘導策が、中口間の経済貿易を促進することになる。

政治関係が強化されつつある中、経済関係も中口間の戦略的パートナー関係に相応する内容を持つことも求められる。中口間が形成した友好的かつ戦略的な協力関係は、他国との関係と比べても、優越性と緊密性が備わっている。しかしながら、これを中口間の経済貿易関係と比べると、急速な発展を遂げているものの、政治関係よりも遅れていることは明らかである。経済的には中米・中日・中韓との貿易額に大きな差があり、投資ほかの分野でも著しい遅れがある。経済関係が遅れることによって、政治関係にも早晚影響を与えることを早いうちに認識していくとともに、両国経済協力をさらに強化させることに着手する必要がある。

1990年代のロシア経済危機は、当時のロシアと中国間の経済関係の総体的な停滞の主な原因であった<sup>13</sup>。1998年の金融危機の後、ロシア経済は次第に底を打ち、比較的安定した成長期に入った。この影響により、中口貿易は1999年から急速な発展を遂げ、8年連続で成長した。今後は両国経済がともに良好な成長態勢を維持できると考えられる。これは両国の経済貿易協力の発展に新たなチャンスと原動力を創生する。

中口間の原油パイプラインプロジェクトの実施とエネルギー協力が迅速に発展することで、両国の協力規模はさらに拡大するだろう。1996年当時、両国はすでにパイプラインプロジェクトの建設を検討していた。ロシア側による長期間の躊躇と紆余曲折、そして論争の後、2006年3月に両国は最終的にパイプライン建設の新たな案を提出し、タイшетからナホトカのパイプライン上に中国へのパイプラインを建設する協議が成った。

同年4月、第1期工事（タイшетから中国国境と60kmの距離にあるスコボロディまで）が開始し、2008年9月に完成する予定で、輸送能力は年間3,000万トンである。これは中口パイプライン協力プロジェクトが新たな段階に入ったことを示している。中口貿易は年々拡大し、2006年のロシアによる対中原油輸出は1,597万トン（前年比25%増）となり、中国の原油輸入の11%を占め、ロシアが中国にとって原油輸入の重要な輸出地となった。また、両国はガス田の共同開発、石油精製と化学工業、ガスパイ

<sup>11</sup> . . . . . 2006-2010 . . . . . , [http://www.solo-consulting.com/rus/general/analytic/analytic\\_22.html](http://www.solo-consulting.com/rus/general/analytic/analytic_22.html) . . . . . [http://www.solo-consulting.com/rus/general/analytic/analytic\\_22.html](http://www.solo-consulting.com/rus/general/analytic/analytic_22.html) . . . . .

<sup>12</sup> . . . . . 2004 . . . . . , [http://www.kitairu.net/rus/about\\_china/magazine/archive/2005/04/36](http://www.kitairu.net/rus/about_china/magazine/archive/2005/04/36) . . . . . [http://www.kitairu.net/rus/about\\_china/magazine/archive/2005/04/36](http://www.kitairu.net/rus/about_china/magazine/archive/2005/04/36) . . . . .

<sup>13</sup> . . . . . , <http://www.carnegie.ru/ru/pubs/media/8896> 「ロシアと中国 東アジアとユーラシア一体化の戦略的パートナー関係」 <http://www.carnegie.ru/ru/pubs/media/8896> . . . . .

ブライン敷設などの分野で協力を検討している。

今後はロシアのWTO加入が、中口貿易協力をさらに促進する。ロシアはWTO加入に向けて交渉中であり、近い将来には加入できる見込である。加入によるロシア側の関税引き下げによって、中国の対口輸出が増加する。国際的ルールに沿って貿易活動を行い、貿易環境を大きく改善し、発展が促進できる。両国はWTOメカニズムによって争いを解決し、貿易摩擦によるマイナスの影響も減少することが可能となる。

現在、経済貿易協力のさらなる発展に向け、両国は積極的な措置を採ろうとしている。その措置とは、以下のとおりである。

貿易秩序を規範化し、成長への転換を促進すること。

両国は貿易秩序を規範化する共同活動チームを通じて、貿易に関する秩序問題の解決を討議する。中国側はロシアにある中国企業が速やかに経営のやり方を転換するよう促し、ルールに沿った経営行為を実施させる。ロシア側は税関検査を強化し、税関における違法行為を管理する。

機械電気製品の貿易を拡大し、貿易構造を改善すること。

中国側は企業による輸出製品の技術レベルと付加価値を高め、アフターサービス体制を整備し、製品競争力を向上させるとともに、ロシアからの機械電気製品の輸入を増加

させ、輸入構造の改善を図る。2007年3月、モスクワで開かれた「中国年」の間、中国企業はロシアから5.09億ドルの機械電気製品の輸入契約を締結した。

両国の大手企業間の協力を促進すること。

両国は実力のある大手企業が経済貿易に参画することに積極的に取り込み、自社ブランドの相互市場への進出を奨励し、各分野での投資と技術協力を強化させている。

国境地域の貿易協力を強化させること。

2004年の中口国境問題の全面的解決によって4,300kmの国境線が友好協力地帯となった。両国の国境貿易は安定的に成長し、両国国境地域間の経済技術と投資協力から次第にエネルギー、生産加工、工程請負、農業協力などの分野に拡大し、顕著な効果が現れつつある。現在、双方では貿易秩序の規範化、貿易構造の改善、通商口のインフラ建設、投資・技術交流・国境地域の貿易サービスシステムの整備に力を注ぎ、国境地域の全体的な経済貿易の協力レベルをさらに高めようとしている。

中口間の経済貿易発展における有利な要素と両国政府による国境貿易拡大の施策を総合的にみると、両国が掲げた貿易投資目標の実現は可能であろうと思われる。

[中国語原稿をERINAにて翻訳]

## *Sino-Russian Economic and Trade Relations: The Current Status, Challenges and Prospects*

LIU Fenghua,

Associate Professor, Institute of Russian, Eastern European and Central Asian Studies, Chinese Academy of Social Sciences

### Summary

Sino-Russian trade has increased for eight consecutive years. The two countries' economic cooperation has gradually expanded and the economic and trade results are well known. The problems therein, however, cannot be ignored. The two countries' border trade is not organized on rational lines, the scale of mutual investment is small, the method of trade needs to be standardized, and a trade service system in agreement with international practice has still not been established. The governments of China and Russia have worked actively toward the solution of these problems, and they are striving to promote development where the trade of both countries is furthered. Sino-Russian relations have been being strengthened without letup, the two's economies have grown at high speed, and energy cooperation is also set to expand gradually. Russia will shortly achieve membership of the WTO. From their existence, such things are thought to be favorable factors to drive the development of Sino-Russian trade.

**Keywords:** China, Russia, trade relations, economic cooperation

[Translated by ERINA]